

大和国小路村梅本家文書概要

- 1: 文書群番号 101045
- 2: 文書群名 大和国小路村梅本家文書
- 3: 出所 梅本家
- 4: 家業・役職等 代官(金峯山寺領小路村)
- 5: 地名 大和国吉野郡小路村／奈良県吉野郡小路村／奈良県吉野郡下市村／奈良県吉野郡下市町
- 6: 行政区分 金峯山寺領／奈良県／下市村／下市町
- 7: 歴史
梅本氏は元は紀伊国熊野の出身で、南朝より大和国吉野郡御料(ごりょう)荘の荘司に任じられて以来、代々小路村に居住した。文明年間(1469～87)には一向宗に帰依して、念仏道場(後の小路村浄徳寺)を設けている。永禄年間(1558～70)、織田信長により大和守護となった筒井順慶の吉野攻めにあい、帰属するがのち閑居した。元文4年(1739)に金峯山(きんぷせん)寺領小路村の代官となり明治にいたる。金峯山は修験本宗の総本山で、蔵王権現信仰の拠点となった地域でもあり、吉野山蔵王堂を中心に多くの宿坊を有した。なお金峯山は慶長19年(1614)以降、天台宗日光山輪王寺の支配下にあった。天明6年(1786)、梅本氏は金峯山実城寺付きの地下人となり、名字帯刀を山門より許されている。
- 8: 伝来
出所の所蔵を離れていた本文書群を、上浦有雅氏(尼崎の近世古文書を楽しむ会)が古書籍商より購入。平成14年(2002)11月、上浦氏より寄贈。
- 9: 史料入手先 上浦有雅氏(尼崎の近世古文書を楽しむ会)
- 10: 点数 224点(目録件数205件)
- 11: 年代 貞享3年(1686)～明治5年(1872)
- 12: 構造と内容
本文書群は、梅本家が代官役をつとめた①金峯山寺領小路村の支配・村政に関する史料、および②書籍・写本から構成される。①は、年貢・諸役銀収納の史料のほか、吉野山学頭が初入り(入山)した際の代官出勤・入用の控え、金峯山の開帳史料、梅本氏の代官任官由来を記した控えなどが180点余ある。②は農書・園芸書などの版本・写本が39点。
- 13: 関連史料 -
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 松迫寿代